

養護教諭からみた教員・学校管理職の学校保健・安全の資質・能力

Qualities and abilities of school health and safety for teachers and teachers being managerial position viewed from Yogo teachers

物部博文 1, 菊地美和子 1, 沢田真喜子 2, 杉崎弘周 3, 植田誠治 4

Hirofumi MONOBE, Miwako KIKUCHI, Makiko SAWADA, Kosu SUGISAKI, Seiji UEDA

横浜国立大学 1, 日本女子体育大学 2, 新潟医療福祉大学 3, 聖心女子大学 4

1. Yokohama National University, 2. Japan Women's College of Physical Education,
3. Niigata University of Health and Welfare, 4. University of the Sacred Heart, Tokyo

キーワード :

教員, 学校管理職, 学校保健・安全, 資質・能力, 養護教諭

teacher, teacher being managerial position, school health and safety, qualities and abilities, Yogo teacher

Abstract

Objective: Teachers and teachers being managerial position have to have the qualities and abilities for school health and safety in view of a lot of health and safety issues in school. However, there is no subject related to the school health and safety in teacher training curriculum. The question we have to ask is what kind of qualities and abilities of school health and safety are required for teachers and teachers being managerial position.

Methods: The interview survey targeting 16 yogo teachers was done. The contents of the interview were concerning the qualities and abilities of school health and safety of teachers and teachers being managerial position who being well to maintain a healthy and safety class/school.

Results: Ten factors regarding teachers were extracted, including “Awareness of one’s own health”, “Information gathering”, and “The value of health and safety”. Eight factors of teachers being managerial position were extracted, including “Safety and health management”, “Goals for a healthy and safe school”, “Clear management policy and empathic understanding”.

Conclusion: It was suggested that these factors should be considering when the teacher training curriculum would be making.

I. 緒言

学校は、児童生徒の生活習慣、心の健康、アレルギー疾患、性、薬物乱用をはじめとするさまざまな健康に関わる課題を抱えている¹⁾。また、犯罪や事故、自然災害など学校を取り巻く安全に関する問題は、社会的な関心を集めている²⁾。現代の教員には、それらの健康および安全に関する課題を予防し、問題が発生した場合には、速やかにかつ適切に対処する能力が求められている。さらに、児童生徒の健康を保持増進するための健康的で安全な学校環境を整備する必要がある³⁾、そのために教員は、他の教職員と協働的に学校保健および学校安全に参画し、保護者および地域住民、諸機関との有

機能的な連携を構築しながら学校に生じる諸課題の予防と解決に結びつける必要がある。

しかし、教員養成課程のカリキュラムに視点をあてると、近年、日本学校保健学会による文部科学省への意見提出⁴⁾がみられるものの、学校における保健や安全について取り扱う科目は、通常割当てられていないのが現状である。したがって、保健体育科教諭や養護教諭以外の教員を目指す学生にとっては、教育実習や教育実習の事前指導などで学ぶ以外は、保健や安全に関して学ぶ機会自体が少ないと言える。

また、教員の資質・能力に関するに関する研究に視点を当ててみると、教員の資質を構成する要素に関する研究⁵⁾⁶⁾、児童生徒指導に関する研究⁷⁾、授業実践⁸⁻¹³⁾の資質・能力に関する研究が多く、授業実践や児童生徒指導の研究が多い。また、健康や安全に関連した研究では、保健の授業に関する研究や授業に関わる教員の資質・能力に関する研究¹⁴⁻¹⁸⁾が比較的多く認められる。しかし、一般教員の保健・安全の資質・能力に関わる研究は、一般教員の保健・安全のニーズに関する植田らの研究¹⁹⁾、教員の安全や保健に関する資質・能力についての研究²⁰⁾²¹⁾のみであり、極めて少ないのが現状である。

そこで、本研究では、学校保健の専門職である養護教諭の経験からみて、保健や安全についての資質・能力を有する教員にはどのような特性があるのかを明らかにすることを試みた。

II. 研究方法

1. 研究対象

本研究で対象とした養護教諭の基本属性を表1に示した。学校における保健及び安全の専門家という視点²²⁻²⁹⁾から養護教諭を対象とした。また、教員歴として中堅を教職5年以上とする木原の見解³⁰⁾を参考に経験年数5年以上の養護教諭を対象として選定し、最終的に神奈川県の小学校、中学校、高等学校に勤務する現職養護教諭16名を対象とした。

2. 調査期間

調査は、2012年7月から2015年11月の間に実施された。

3. 調査内容

3.1. 養護教諭の基本属性

養護教諭の基本属性として、勤務年数、勤務学校種、保健室経営観を聞いた。

3.2. 一般教員の保健・安全に関する資質・能力

「健康的で安全なクラス経営や授業実践等を試みている教員の性質や行動」について聞いた。ヒアリングにあたっては、養護教諭が日常的な職務に際して健康や安全を意識しながらクラス経営をしたり、授業実践をしたりしていると思う教員を過去の経験から想起させた。

3.3. 学校管理職の保健・安全に関する資質・能力

一般教員の保健・安全に関する資質・能力と同様な観点から「健康的で安全な学校経営を試みている管理職の性質や行動」について一般教員と同様に聞いた。

4. ヒアリング方法および分析

半構造化面接法による聞き取り調査を実施した。聞き取り調査はICレコーダーに録音し、逐語録を作成した。逐語録を、Steps for Coding and Theorization(以下:SCAT)³¹⁾により分析した。本研究と同質の研究、すなわち、学校管理職を通して養護教諭の特性を把握した研究³²⁾にもちいられているSCATを用いて分析した。表2にSCATによる分析の一例について示した。インタビュー結果の入力・セグメント化後、4ステップのコーディングを作成し、そのテーマや構成概念を紡いでストーリー・ラインを記述した。データ分析は、ヒアリングと同時並行し、11人の時点で飽和し、その後5

人を追加した。分析結果の信頼性・妥当性のために研究会に2回、学校保健学会に2回発表し意見を聞いた³³⁾³⁴⁾。

表1 対象とした養護教諭の属性と保健室経営観

No.	学校種	養護教諭歴	学校種別養護教諭歴	保健室経営観
1	小学校	28年	小学校20年、特別支援学校8年	学校組織の一員として保健室を運営している。同時に、学校文化の中で養護教諭が何をできるか考えている。また、子ども達が元気に学校に来て活動できるように学年・担任・子ども・保護者にどのような支援や指導をしたらよいかを考えている。子どもが卒業した後も健康の質を高めながら自ら成長しようという力を伸ばそうと心掛けている。
2	中学校	30年	中学校30年	生徒が「自分の体をどうしたいのか。」「どうしたら健康になれるか。」「どうしたら改善できるか。」「等、自分で考えるように促すように心掛けている。また、生徒や保護者の意識を変えるために日々の保健室の中で繰り返されることを発信しようとしている。
3	中学校	13年	中学校13年	クラスでひとり、休み時間で一人になる生徒など、弱い生徒が来やすい保健室づくりを心掛けている。また、普通の生徒のけがや体調不良時の居場所、問題行動が発生した場合のクーリングダウンの場所としても運営している。ただし、強い生徒がいるので弱い生徒が来られなくならないように配慮している。
4	小学校	7年	小学校7年(その前は看護師を5年)	自分の心と体を大切に、まわり人の心と体を大切に児童を育てたい。いろいろな要素が含まれているが具体的には、はんかちやティッシュを携帯したり、歯を磨いたり自分を守りながら、将来、家族の健康を守るところまで、そういう力を子どもにつけてほしいと思い保健室経営をしている。
5	高等学校	30年	高等学校30年	教室に行くことが生徒の役割なので、生徒が教室に戻れるように根拠のある養護活動をしたいと考えている。根拠にもとづいた判断があれば他の教員ともきちんと議論ができる。また、きちんと議論をするためにはコミュニケーションや人間関係が大事であり、信頼関係がある中で議論ができることが大事だと考える。
6	小学校	28年	小学校28年	明るく保健室。誰でも入れる保健室になるように心掛けている。基本的に授業中は授業を受けさせたいと考えている。そのために児童ばかりではなく、仕掛けて予防できるようにしたいと考えている。児童には、たくましく生きる力を育てたいと思っている。
7	高等学校	27年	小学校1年、特別支援学校15年、高等学校11年	学校の中でセンター的な役割を担えるような保健室。生徒や教師等が情報を持ちこんでくれる。先生との連携、生徒が来やすい雰囲気心がけている。社会的に悪いことは振り分けながら生徒を受容しようとしている。
8	高等学校	10年	高等学校10年	必ずしも保健室が絶対ではないと考え、学校の中での役割分担として保健室を運営している。生徒の立場で、将来にわたっての健康、安全、発達、保護者との関係等を考えさせたい。
9	中学校	21年	小学校半年、中学校半年、高等学校3年、中学校17年	人が来やすい保健室を心がけている。保健室の中で抱えることがないように努力している。命優先でやりたいと思っている。
10	小学校	7年	特別支援学校4年、小学校3年	児童が安心できる。あたたかな保健室を実現したい。用がなくても来ていいという雰囲気にして、困った子どもが来室しやすいようにしたい。
11	小学校	5年	小学校5年	健康情報センターとしての役割を果たせるような保健室にしたい。発育測定スペース、本、掲示物を置き、児童が自らの健康問題について主体になれるような支援をしたい。心と体が癒される居心地のよい保健室空間を目指している。傷ついた子ども達の緊張をときほぐすような保健室。子供たちが学校生活を楽しむような生活空間としての保健室。来室者に耳を傾けてしっかりと関わりたい。そのうえで、子供たちを取り巻く人々と共通理解しながら問題解決を図りたい。
12	高等学校	8年	高等学校8年	まずは、生徒を受け止めるし、受け入れたい。優しくあげたい。例えば、学習保障もあるので励ます。教室のまで一緒に行きあげたりしたい。心のケアを中心にインクルーシブな保健室にしたい。子ども達の気になること、学校生活の難しいことを意識してやるように心がけている。
13	小学校	18年	小学校18年	児童が経験を通して気づいたり、学んだりしてほしい。心や体について学んでほしいと考えて保健室を運営している。例えば、寝るのが遅かったとか、付き添った子どもにも同じようにアプローチしたい。失敗が学びであり、気づきでもある。
14	中学校	18年	中学校18年	開かれた保健室を作りたい。来室者の主訴、身体症状、家庭、自分自身のなど、不安や問題が身体症状となるので、話をすることで落ち着いたり、本人の状況を言語化することで問題解決できるようにしたい。そうすると、来室も少なくなり、学校適応も良い。保健室からの支援につながる保健室でありたいという。また、生涯を通じた健康観につながる取り組みをしている。体調が悪かったり病気で学校生活を送れるスタンスを持たせたい。さらに生徒が保護者になったときに健康面で子どもへの働きかけられるようにしたい。
15	高等学校	5年	高等学校5年	保健室は、階段の踊り場だと考えている。ちょっと教室で疲れた子が休めるような場所だと思う。安全地帯、評価もしない、授業も持たない。教室に行きづらいに子どもにとっての安全地帯でありたい。生徒が最終的には教室に戻れるように支援したい。
16	中学校	24年	中学校23年、小学校6か月	具合が悪い子が静かに休める場所でありたい。静かに話ができる保健室が良い。健康相談や救急措置を丁寧にやっていきたいし、弱っている子に寄り添いたい。

5. 倫理的配慮

本研究は、ヘルシンキ宣言、日本学校保健学会倫理綱領を遵守して実施した。面接は調査対象者の都合のよい場所で実施し、負担が少なくなるようにした。調査対象者には、研究目的を伝え、個人が特定できないように番号でデータを管理することを説明し、考える時間を確保したのちに同意を得た。また、データは個人が特定できないように番号で整理し、インターネットに接続していないパーソナルコンピュータにて管理した。

表2 SCATIによるデータ分析の例

番号	発話者	テキスト	<1>テキスト中の注目すべき語句	<2>テキスト中の語句の言い換え	<3>左を説明するようなテキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	<5>疑問・課題
1	1	体育の男の先生30代前半。スポーツもよくできるし自身も健康の保持増進に努めている。	スポーツもよくできるし健康	教員自身の健康の保持増進	教員のヘルスリテラシー、自己管理能力	自分自身の健康に関心があり、実際に自己管理をしている教員は、児童の健康や安全にも目が行きやすい。	健康でないといけないのか
2	1	子どもたちに厳しい面もある。クラスのルールがはきりしているけれども、子どもの話もよく聞く。弱い子どもの立場に立てる。体育はわからない面が多い。みんな違うけれども多くの仲間でルールを守ろうね。でも守れない。養護教諭からもはっきり分かる。	子どもたちに厳しい面もある。クラスのルールがはきりしているけれども、子どもの話もよく聞く。弱い子どもの立場に立てる。	クラスの規律と適応の幅の狭い児童への支援	集団のモラル、インクルーシブ	学級集団としての規範・モラルを重視し、そのための価値基準を持っている反面、一方で個々の児童の特性を理解し、配慮する姿勢を持ち合わせている。	スタンダードとなる基準はあるのか
3	1	叱りすぎたので、フォローしてくださいと言ってください。高学年が多い先生だったので、女の子に対して、教員と養護教諭の信頼関係。あとでどうだったのかのすり合わせがある。毎回は無理でも3回に1回はする。	叱りすぎたので、フォローしてくださいと言ってください。	養護教諭の信頼と連携	他職種の信頼、他職種との協働	指導は自分だけで完結するわけないことを理解しており、他の教職員や他職種と協働的に課題を解決するような働きかけをしている。	信頼できない教職員もいるのではないのか
中略							
ストーリーライン（現時点で言えること）	教員自身も健康に気をつけていたり、教育活動における健康や安全を重要視したりしている。そのために健康観察を丁寧に実施したり、保健室に来室したり、校内を巡回したりするなど児童生徒の健康や安全に関する情報を的確に把握し、養護教諭や教員・管理職と情報共有している。また、実際の教育実践においても予防的な教育活動を実践し、安全で健康的な学習環境を構築できる。教室や授業では、児童生徒の発育・発達段階を踏まえ、規範や明確な基準をもって児童や生徒に対して集団的指導と個別指導を実施する。しかし、集団指導の中の弱者にも視点をむけ支援することを厭わない。また、日々の実践を省察する。そして、課題発生時には問題の解決に向けて早期に対応する。その際、校内での保健室および養護教諭の存在を認知し、情報を共有し、課題の解決に向けて働きかけ、協働的に行動する。						

III. 結果

1. 健康的で安全なクラス経営や授業実践を試みている教員の性質や行動

健康的で安全なクラス経営や授業実践を試みている教員の性質や行動として、「教員自身も健康に気をつけていたり、教育活動における健康や安全を重要視したりしている。」そのために健康観察を丁寧に実施したり、保健室に来室したり、校内を巡回したりするなど児童生徒の健康や安全に関する情報を的確に把握し、養護教諭や教員・管理職と情報共有している。また、実際の教育実践においても予防的な教育活動を実践し、健康的で安全な学習環境を構築できる。教室や授業では、児童生徒の発育・発達段階を踏まえ、規範や明確な基準をもって児童や生徒に対して集団的指導と個別指導を実施する。しかし、集団指導の中での弱者にも視点をむけ支援することを厭わない。また、日々の実践を省察する。そして、課題発生時には問題の解決に向けて早期に対応する。その際、校内での保健室および養護教諭の存在を認知し、情報を共有し、課題の解決に向けて働きかけ、協働的に行動するというストーリー・ラインを導き出した。なお、文章中のアンダーラインは、分析の結果導き出されたテーマ・構成概念である。テーマ・構成概念につながるインタビュー内の言説の詳細については、以下の1.1から1.10に示した。「」内は、発話内容を示した。

1.1. 教員自身の健康

教員自身が健康であったり、健康に気を使っていたりするという要素が抽出された。これらは、「体育の男の先生30代前半。スポーツもよくできるし自身も健康の保持増進に努めている」「健康や安全が人間の中で大事だという意識が高い人。自分の健康観を持っている人」「きちんと努力をして健康を保っている人がいいのかも。健康すぎる人で意識の低い人は、同じ子供への評価が違ってくる」「先生が手洗いうがい歯磨きなどを実践できる」「先生自身が心身共に健康。病休明けの先生がもどることがあり、子供の半数以上が保健室に来室した経験がある。感情起伏が少ないほうが子供も安定している」「先生の精神的な安定が大切だと思う。公平・公正な感覚につながる」等のインタビュー結果から読み取れた。

1.2. 健康や安全に関する情報収集能力

児童生徒の健康や安全に関する情報収集能力が高いという要素が抽出された。これらは、「健康観察を丁寧にみている」「子供の顔つきを見ながら健康状態をチェックしている」「保健室に入り浸る子供に関心を寄せてくれる。保健室に誰かいるのか関心を持ってくれる」「よく保健室にくる。生徒がいてと声をかけてくれる。忙しい中で手間暇を惜しまない。誰もいなくてもふと来る。平和ですかあって。生徒がいると1時間でも話をしてくれる。忙しいのに」「アンテナが高い先生たちはクラス経営がうまくいっている。世の中の動きが広く見えている」「クラスや部活の生徒に対して、興味を持っている。気づく、細かく知りたがる。常にいつも子供たちに興味を持っている。声掛け、たわいのない会話で、声掛けをしている」という発話から読み取れた。

1.3. 健康や安全を教育活動の上位に位置づける

教育活動の実践において、健康や安全を教育活動の上位に位置づけるという要素が抽出された。例えば、「優先順位がちゃんとしている。やらなければならないことはたくさんあるが、子供の安全や様子が優先順位の上になる」「教育目標に健康が大事と考えている」等の発話から読み取れた。

1.4. 健康や安全に関する予防的な教育活動

教員が予防的な教育活動を実践しているという要素が抽出された。例えば、「インフルエンザの時期に教室入口に登校したら手洗いうがいをしましょうと貼ってある。スポーツ好きで子供達と遊び・走っている。実際、学級閉鎖にならなかった」「同じ怪我を他の子がしないようにする。手洗いとか教室の換気とかを良くする」「歯の衛生週間をやります、よかったら見に来てくださいと言ってくれる」「手洗い・うがい・休み時間に外で遊ぶ日を作る。給食についてもちょっとずつ働きかける」「練習するに当たって技の難易度を考えながらステップを踏んでいる。体操とかでステップを超えてやりたい気持ちが中学生にある。けがが最小限度ですむ場合が多い」「心臓検診をやる前にこんな風にやるんだというところまで説明してくれたので、子供たちが落ち着いて健康診断を受けてくれた」という発話から読みとれた。

1.5. 安全な学習環境のデザイン

教員が安全な学習環境を構築しているという要素が抽出された。例えば、「クラス経営としては、まず、教室が整っている。棚とかもとがった部分がない。だから教室とかの怪我也少ない。その先生は、自分の机の上もすっきりしている」「整理整頓されている。机もきれいになっていてゴミも落ちていない」「子供が安全でその日の活動をさせるためにこの場所にこの練習が適しているか。ボールの方向も考えたりする場合もある」「ハード面としては、施設教室内廊下道具も含めきちんと危険のない状態に目を配れる」から読み取れた。

1.6. 児童生徒の発育・発達の把握と見通し

児童生徒の発育・発達への見通しをもって実践しているという要素が抽出された。これは、「担任の先生だと、行事や3年かけてどういう生徒にしたいという考えがある」「1年、2年、3年と繋げて考えている」「育てたい子供像がある。目の前のことでわちゃわちゃしてない。子供にけしかけている様子もある」「行事があり勝ち負けもあるが、勝負にこだわりすぎないし、目標をうまく利用して人間関係を作るようにしている」という発話から読み取れた。

1.7. 指導基準と個別支援

教員が指導基準を持つが、個別の支援も併せて大切にしているという要素が抽出された。例えば、「クラスのルールがはっきりしているけれども、子供の話もよく聞く。弱い子供の立場に立てる」「けじめはつけるし、厳しさはある。子供と遊びながらもけじめはある。だけど、怪我でも体調不良でも気にしてくれる。めんどくさがらない時間を子供に使う」「厳しくした分きちんとフォローしている。適応障がいの子供や保健室も認めてくれている」「軸がぶれない。教員に対しても子供に対しても軸がぶれない。子供に任せる許容の範囲を熟知している」「全体指導と個別指導。子供にあった指導ができるのが健康で安全な授業実践だと思う」という発話からも読み取れた。

1.8. 実践の省察と自身の成長

教員自身が日々の実践を省察し、自身が教員として成長しようとしている要素が抽出された。例えば、「自己成長しようとしている。子供の様子を見取って記録をしている。見取ってわかりやすく伝える。自分も持っているけれども、他の人から見てどうだろうか振り返る」「自分のかたよりを他の人から確認する」「前向きに成長しようとしている」という発話から読み取れた。

1.9. 課題発生時の初期対応

課題発生時の初期対応が素早く的確であるという要素が抽出された。例えば、「授業を終えたときに生徒が健康で帰れるか把握・確認する。問題が発生した場合は保護者に後から連絡をする」「クラスの子供の具合が悪くなると必ず保健室に見に来てくれる。子供が安心するし、養護教諭も連絡が取りやすい」「怪我した子供がいると集まってきてくれる。養護教諭が不在だと呼びに来てくれる。氷、怪我等の対応をしてくれる」「高学年でも自分で保健室に連れてくる。なんでも早期に解決する」等の発話から読み取れた。

1.10. 養護教諭等との信頼関係と連絡・情報共有・協働

学校の中で養護教諭をはじめとする教職員との信頼関係を築いており、連絡し、情報共有し、課題の解決に当たっては協働するという要素が抽出された。例えば、「気を遣って言えないでいたことをすすめてくれた。察知してくれて、引き受けて対応してくれた」「叱りすぎたので、フォローしてくださいと言ってくれる。高学年が多い先生だったので、女の子に対してそのように対応してくれる。教員と養護教諭の信頼関係が大事だと思う」「教師も養護教諭を理解している。養護教諭の意見を実践に生かしてくれる。お互いに高めあっている感じがする」「迷惑かと遠慮していたんだけど、いろいろ頼むと教育活動に生かしてくれる」「足を運んでくれるし、情報ももらえる。その生徒の情報を様々な角度からももらえる。保健室がセンターであることに共感してくれる」等の発話から読み取れた。

2. 健康的で安全な学校経営を試みている学校管理職の性質や行動

健康的で安全な学校経営を試みている学校管理職の性質や行動として、「管理職として保健や安全についての明確な視点を持ち、学校目標やマニフェスト等に安全や健康を位置付ける。管理職として、明確な学校経営方針を打ち出すが、教職員への共感的な理解も併せ持つ。同時に協働的・開放的な雰囲気醸成する。養護教諭の専門性を認識し、共感し、協働的に行動する。健康や安全について教職員への価値づけや唱道に取り組み、課題の発生に当たっては、当人や保護者等の視点を重要視する。また、的確かつ素早い対応を行う。責任を引き受け、教職員を指導し、相談を受入れ、協働的に行動する」というストーリー・ラインを抽出した。なお、文章中のアンダーラインは、分析の結果導き出されたテーマ・構成概念である。テーマ・構成概念につながるインタビュー内の言説の詳細については、以下の2.1から2.8に示した。「」内は、発話内容を示した。

2.1. 管理職としての健康や安全に関する視点

管理職として健康や安全に関する視点を持つという要素が抽出された。例えば、「歴代の管理職は健康・安全を大事にしてくれる。校長と教頭どちらかにそういう思いが強ければ何とかうまくいく」「子供だけでなく、保護者や先生の健康安全に目を向けられる」「子供のけがに関して気にする。保護者対応も含め気にかけてくれる。保護者への連絡や病院はどうか。感染症に対して気を付けてくれる。受験期も含めて気にかけている。熱中症、メンタル関係も教職員も含め気にかけてくれる」「校長先生自身が健康や安全について、インフルや状況に気付いた時に養護教諭よりも先に動く。行動力、教員や他機関への行動力。集団感染とかは危機管理についてしっかり考えている」等から読み取れた。

2.2. 学校目標等への健康や安全の位置づけ

管理職は、学校目標等への健康や安全を位置づけているという要素が抽出された。例えば、「学校

目標の中に健康・安全に関わるキーワードがあるかマニフェストがしっかりしている」「教育目標に健康・安全を反映させる。そういう子供に育てたい。子供を大切にしたい。という子供主体に何が必要かを本質的に見られる人」「学校目標に健康について入れる」等から読み取れた。

2.3. 明瞭な学校経営指針と共感的理解

管理職は、明瞭な学校経営指針を持つが、教職員や生徒、保護者に対しても共感的理解を持つという要素が抽出された。例えば、「一般教諭には、信念を貫き通す。だけど、同じ感覚や共感も持つ。そういう人が管理職になっている。そうすると教員が平和に穏やかに過ごせる」「リーダーシップがあると同時に教員一人ひとりへの配慮ができる。育てようという配慮がある。先生の個性を尊重しつつ、学校をチームとして機能させていけば良いという全体像が見えている中で、教員一人一人を大切に」「先生も心配、養護教諭も心配と。教職員の味方でいてくれる。忙しいけれども聞いてくれる」「生徒目線に立てる人。相手の立場に立って考えられる。きちんとやっていることに対して認めてくれる」等から読み取れた。

2.4. 開放的・協働的な職場環境の醸成

管理職は、開放的・協働的な職場環境を醸成しているという要素が抽出された。例えば、「柔軟に話を聞いてもらえる」「限界を知っているのだから人に任せられる。それができないひとは縛っちゃう。できないことはあるからという感覚。人には強制的ではなくお願いをする」「話しやすいコミュニケーションがとりやすい。自身をネタにしながらかつ話している。ちょっとしたことが相談できるし、すぐに動いてくれる」等から読み取れた。

2.4. 養護教諭の専門性の理解・共感・協働

管理職は、養護教諭の専門性を認識し、共感し、協働するという要素が抽出された。例えば、「いつもありがとうございますって、養護教諭の専門性を尊重してもらっている。学校における小さな変化を養護教諭に連絡・相談・報告してくれる」「養護教諭の職務の重要性や価値を言葉だけでなく、理解してもらえる。例えば、保健だよりを作ったら声掛けをしてくれる。生徒の対応の報告に対して細かく聞いてくれる。保健室に来てくれる。雑談をしてくれる。聞いてくれる。研修にも行かせてくれる」「保健室でつながっていてくれる。保健室の存在を認めてくれる。保健室経営を学校組織の中に組み入れてくれる」「毎朝、校門で挨拶をしている校長先生がいるけど、ただ挨拶している校長とそうではない子供の表情を健康観察している校長。昨日は一緒にしていたのに一人で来ている。子供の人間関係の変化を見取る。自分に収めるだけでなく、変化について共通理解を図ってくれる校長。そこまでしてくれると養護教諭として助かる」「担任と同じで保健室によってくれる。大丈夫やってみよう。責任は自分が持つから」等から読み取れた。

2.5. 教職員への健康や安全の価値づけや唱道

管理職は、教職員への健康や安全の価値づけや唱道を実施しているという要素が抽出された。例えば、「教職員の打ち合わせの時にアナウンスしてくる。校長からの後押しがある。例えば、保健だよりの内容を言ってくれる。こんな怪我があったよっていうのを全体に行ってくれる」「熱中症予防について、養護教諭が言うと悪者になるので管理職の立場で言ってもらおう」「養護教諭が発信することに全面協力してくれる。例えば、学校保健のまとめを2月に出す。総括して校長が言う時に活用してくれる。そうすると教員はちゃんとやってくれる。結果として、怪我が少なくなっている。そのような経験はなかなかない。出し方も工夫次第だと思った」「インフルエンザが流行する前に手洗いうがい、朝窓が開いているか、を確認している」「養護教諭のデータを大事にしてくれる。データを渡すと文章化して、教員に配布する」等から読み取れた。

2.6. 課題発生時の当事者意識・保護者目線

管理職は、課題発生時の当事者意識・保護者目線を持つという要素が抽出された。例えば、「保護者目線を持てる。両方親だから当たり前だろうと、苦悩に寄り添える」「保護者の目線を持っている。保護者への連絡の入れ方も担任の先生がたが丁寧になる。今、いま子供が痛がっているのかも親

としては気になるはずだからとか、早く帰りなさと声掛けする」「生徒目線に立てる。相手の立場に立って考えられる。きちんとやっていることに対して認めてくれる」等から読み取れた。

2.7. 的確かつ素早い初期対応

管理職は、的確かつ素早い初期対応を実施しているという要素が抽出された。例えば、「怪我の対応も児童がいるとやってきてくれる。現場を担任と見に行ってくれる。すぐ直してくれる。ここでこういう遊びをさせると危ないよね。次に同じ怪我をさせない。怪我は起きてしまうので初期対応の速さ、徹底ぶり」「大人同士の対応。養護教諭任せにしないし、人任せにしない。きちんと相談したことに対して判断をしてくれる」「生徒のことについて対応が早い」等から読み取れた。

2.8. 責任の引受と教職員の指導・相談・協働

管理職は、責任を引き受けるとともに教員を指導し、相談に乗り、協同するという要素が抽出された。例えば、「教職員と信頼関係を築きつつ、小出しに厳しいことを言える」「教職員の職務の多忙さを理解してくれる。保健室経営の相談にも乗ってくれる。例えば、生徒指導上の問題で怪我が起きた時に判断し、養護教諭を尊重してくれる」「判断に迷うときに管理職に相談するときに確認してもらえる」「一緒に考えてもらえる」等から読み取れた。

IV. 考察

健康および安全に対応するための教員および管理職の資質・能力について、養護教諭にヒアリングした結果についておおまかに見ると意識、実践、他職員の協働という観点に分けられたため、考察については、教員の意識、実践、他職員の協働という観点に分けて検討したい。

まず、意識に関連して、教員は自責思考や仕事優先思考が強い職種であるために、自身が健康課題を抱えやすいという側面がある³⁵⁾。しかし、小学校および中学校教員を対象とした調査からは、運動・身体活動を高いレベルで実践する教員は、高ストレス条件下でメンタルヘルスを維持させる可能性が示唆されていたり³⁶⁾、精神的健康度が高い教員は、児童生徒との関係が良いと報告されたりしている³⁷⁾。したがって、まず教員自身が健康や安全に価値を持つ必要があると言えよう。また、このような教員の意識に関しては、管理職の意識の影響も大きいと推測される。近年、柔道や水泳等の学校体育活動、運動会における組体操、食物アレルギーなどの例にみられるように、児童生徒の健康や安全に関する予防や初期対応は、学校の責任体制を追及されるような大きな問題に発展する可能性を秘めている。しかし、このような予期されるリスクに対して学校管理職の意識が高いとは言えない事案も散見される。例えば、大貫は、組立体操の巨大化を巡る背景に校長のリーダーシップ強化を指摘しており、そこで「ピラミッドの段数を減らすべきだという複数の教員の主張を退け、校長判断で10段ピラミッドを行い、生徒が骨折した」という事案を取り上げている³⁸⁾。管理職としては、教育活動の前提条件として健康や安全を考え、児童生徒のみならず教職員や保護者の健康や安全に配慮し、彼（女）らが健康で安全に生活できるように価値づける必要がある。今回の結果、管理職については、児童生徒や保護者、教員や養護教諭の健康や安全に配慮をはじめ健康や安全に関する様々な側面が抽出されており、改めて管理職の健康や安全に関する資質・能力は重要であると考えられた。しかし、管理職になる段階で、健康や安全に関する意識が高まれば良いかと言えば恐らくそうではないであろう。今回のヒアリングからは教員と管理職の類似性も見られており、健康や安全に関心の高い教員が健康や安全に関心の高い管理職になる可能性もある。したがって、管理職への研修のみでなく、教員養成の段階から健康や安全の価値について学ぶ機会が必要であると考えた。そのような観点からみると、教員養成課程において健康や安全について取り扱う科目は制度化されておらず、現状は、高等学校までの保健教育や教員個人の価値観や信念、職場教育に一任されている状況であるとも言えよう。

次に実践という要素では、健康や安全に関する情報収集をし、予防的な教育活動を実践し、課題の発生に当たっては、早期に行動するという傾向が、教員にも管理職においても認められた。これは

プリシード・プロシードモデル (PRECEDE-PROCEED MODEL)³⁹⁾のような健康教育プログラムの企画・評価モデルのプロセスに類似した行動とも解釈できる。すなわち、「対象集団のQOLを検討し、健康目標や問題を確定し、行動・環境要因を決定し、それらに影響する要因を3観点(前提・実現・強化要因)から実施する。次に、決定した働きかけが実現可能になるように様々な状況を分析する。それらの診断に基づき、必要な健康教育を実施し、実施後、プログラムの進行状況、目標状況を評価する」というプロセスを実施していると解釈できる。言い換えるならば、健康や安全に関するPDCAサイクルが確立されていると言えるのかもしれない。

さらに他職員の協働という観点では、教員相互の関係性、養護教諭と教員との相互の関係性等が抽出されたが、このような要素は現代の教員にとって極めて必要とされる要素であろう。例えば、大人全員で子供たちの教育に携わる協業体制がよりよい教育効果に繋がるという研究⁴⁰⁾や教員のメンタルヘルスにとって同僚や先輩教員が重要なサポート源であるという報告⁴¹⁾もある。今後、学校における課題は複雑化・深刻化する可能性が高く、共通の課題に向けて教職員、保護者、各種専門機関のスタッフが協働する能力が必要とされるし、逆に協力し合うことで課題を乗り越えられる局面も増えると予測される。教員の協働的な側面は、直接的に保健や安全と関わりないと考えられる項目かもしれないが、このような総合的な能力も保健・安全のひとつの能力として必要であろう。加えて、養護教諭を認識し、活用しているという点についても着目してみたい。養護教諭は、学校の中で健康や安全を掌る専門職であり、アレルギー疾患や応急処置のみならず、心のケアや安全にも精通している。また、児童生徒との信頼関係に基づいた情報収集能力を持っている³²⁾ので、養護教諭や保健室を情報収集の拠点として考えたり、児童生徒に生じた課題の解決に向けて協働したりする機会が必ず存在する。したがって、日常的に養護教諭を中心とした専門職と情報交換を図るとともに人間関係を構築しておく必要がある。また、教職課程においては、課題解決のために協働する専門職として、養護教諭やスクールカウンセラー、栄養教諭等についても学ぶ機会が保証されなければならない。

ただし本研究では、養護教諭という保健や安全の専門職の経験から、教員および学校管理職の保健および安全の資質・能力をとらえようとした研究であるために、養護教諭にとって都合の良い教員、管理職像が抽出されたという見方もできる。また、教員自身が健康や安全に関する行動であると意図していない行動をとらえている可能性もある。さらには、アレルギーや心肺蘇生等への対処など教員自身の具体的な課題対応や行動については引き出せていないと言える。したがって、あくまで一面的な切り口として教員の保健及び安全に関する資質・能力をとらえた質的な研究として、限界のある研究であるといえる。今後、質問紙調査や学校管理職への調査等を積み重ねて、教員の保健や安全に関わる資質・能力について検討を重ねたい。

V. 結論

本研究では、保健や安全の専門職としての養護教諭に対する聞き取り調査を通して、教員及び学校管理職の保健及び安全に関する資質・能力を明らかにしようと試みた。その結果、教員と管理職に関する保健・安全の資質・能力に関して、意識、実践、他教職員との協働に関連するさまざまな要素が抽出された。

VI. 参考・引用文献

1) 文部科学省：保健主事のための実務ハンドブック。2010

Available at: http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1295823.htm

Accessed December 1, 2016

2) 文部科学省：「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育。2010

Available at:

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2011/08/03/1

- 3) 徳山美智子, 中桐佐智子, 岡田加奈子編著: 学校保健—ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化—. 東山書房, 京都, 56-58, 2008
- 4) 21) 学校保健学会: 中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」に対する意見提出について(報告). 学校保健研究 54: 459-462, 2012
- 5) 森下覚, 麻生良太, 長谷川祐介ほか: 教師による実践的指導力の自己評定に関する調査. 教育実践総合センター紀要 30: 127-138, 2013
- 6) 小柳和喜雄: 教師の資質能力としてのディスポジションに関する研究. 日本教育工学会研究報告集 2009: 41-48, 2009
- 7) 大越篤: 生徒指導に関する資質・力量と管理職による教師支援. 早稲田大学大学院教職研究科紀要 2: 83-92, 2010
- 8) 茨城県日立市教育委員会: 道徳教育推進のための教師の資質向上にかかわる工夫. 初等教育資料 851: 26-31, 2009
- 9) 佐藤学: 数学教育における教師の職能成長に関する研究: 実践的指導力の形成に向けた実践的プログラムの開発とその可能性. 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 35: 41-53, 2013
- 10) 木下博義: 理科の観察・実験における小学校教師の考察指導に関する研究. 日本教育工学会論文誌 36, : 439-449, 2013
- 11) 杉田直樹, 桑原敏典: 仮説の提示と吟味の方法の工夫による小学校社会科授業改善. 岡山大学教師教育開発センター紀要 3, : 107-116, 2013
- 12) 大平彩加, 宇野浩三, 三浦真帆: 教育方法・教育内容からみた家庭科教師の住教育力: 住まい・まち・環境教育における教師の住教育力に関する研究(1). 日本建築学会北海道支部研究報告集 85: 547-550, 2012
- 13) 金城久美子, 野田文子: 小学校家庭科における授業実践力の育成に関する研究: 「題材構成ワークシート」の提案. 大阪教育大学紀要第5部門 60, : 65-74, 2012
- 14) 久保元芳, 穴沢幸平: 保健体育科教師の養成段階にある学生の保健知識と保健学習への意欲. 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要 35: 213-221, 2012
- 15) 高橋洋, 大越教夫: 学習指導要領とその解説および保健・保健体育教科書における排卵と基礎体温に関する記載. 弘前大学教育学部紀要 107: 113-122, 2012
- 16) 江頭真生子: 沖縄県における中学校・高等学校の「保健分野」授業の実施状況及び教員の意識について. 琉球大学教育学部紀要 80: 83-93, 2012
- 17) 興儀幸朝, 小林稔, 金城昇ほか: 中学校保健体育科における授業力尺度作成の試み. 琉球大学教育学部紀要 79: 279-289, 2011
- 18) 嘉数健悟: 教員養成段階における保健体育教師志望学生の保健授業イメージに関する事例的研究. 学校保健研究 53: 68-74, 2011
- 19) 植田誠治, 杉崎弘周, 物部博文ほか: 教員の持つ保健・安全のニーズ. 学校保健研究 57 (Suppl.): 110, 2015
- 20) 岡田加奈子, 藤川大祐, 中澤潤ほか: ヘルス・プロモーション・スクールを推進する教員研修と評価: 2010 年度に実施した基礎研修と総合研修を対象に. 千葉大学教育学部研究紀要 60: 321-327, 2012
- 21) 西羅憲作, 糸井川栄一, 梅本通孝: 小学校教員の地震防災教育に対する内発的動機づけと地震防災教材の活用可能性に関する研究. 地域安全学会論文集 15: 415-425, 2011
- 22) 萩野和美, 林照子, 江原悦子ほか: 養護教諭の力量形成に関する研究(その1). 大阪教育大学紀要第IV部門 50: 459-471, 2002

- 23) 森紀子, 佐藤理: 養護教諭の職務内容と研修の在り方に関する一考察—福島県の養護教諭に対するアンケート調査を踏まえて—. 福島大学総合教育研究センター紀要 7: 51-58, 2009
- 24) 面澤和子: 中学・高校教諭免許(保健)と養護教諭—健康に関する教育の専門性と専門職養成. 学校保健研究 51: 371-375, 2010
- 25) 大谷尚子: 養護教諭の今日的課題 養護教諭に求められる資質・能力—養護教諭養成にかかわる課題から. 保健の科学 48: 761-764, 2006
- 26) 鎌田尚子: 専門職として養護教諭の資質・力量と能力特性及び大学院教育. 学校保健研究 51: 390-394, 2010
- 27) 采女智津江編: 新養護概説, 少年写真新聞社, 東京, 2009
- 28) 石川県養護教育研究会編, 植田誠治・河田史宝監: 新版・養護教諭執務のてびき 第8版, 東山書房, 京都, 2009
- 29) 藤田和也: 養護教諭が担う「教育」とは何か—実践の考え方と進め方. 農山漁村文化協会, 東京, 2008
- 30) 木原俊行: 授業研究と教師の成長. 日本文教出版, 大阪, 17-42, 2004
- 31) 大谷尚: 4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (教育科学) 54: 27-41, 2007
- 32) 安林奈緒美: 保健と教育が交錯する場における養護教諭の役割. 保健医療社会学論集 23: 74-84, 2012
- 33) 物部博文, 菊地美和子, 永井真樹他: 健康的で安全な学校を構築するための教員・学校管理職の資質に関する基礎的研究—養護教諭への聞き取り調査から—. 学校保健研究 57 (Suppl.): 332, 2012
- 34) 物部博文, 菊地美和子, 杉崎弘周他: 養護教諭から見た教員の保健・安全の資質・能力に関する研究. 学校保健研究 57 (Suppl.): 133, 2015
- 35) 松浦善満: 私たちの求める教育改革—多忙化の克服と学校改革の課題—バーンアウト研究から. 教育 47: 45-52, 1997
- 36) 西田純一, 大西智: 小・中学校教員のメンタルヘルスに及ぼす運動・身体活動の影響—個人特性およびストレス経験を考慮した検討—. 教育心理学研究 58: 25-297, 2010
- 37) 村上慎一: 初任教員のストレス及びその対処法とメンタルヘルスとの関わりに関する研究. 日本教育心理学会総会発表論文集 50: 641, 2008
- 38) 大貫耕一: 組立体操の巨大化・高層化の“謎”. 体育科教育, 5: 45-47, 2016
- 39) ローレンス・グリーン, マーシャル・クロイター: 実践ヘルスプロモーション—PRECEDE - PROCEED モデルによる企画と評価, 医学書院, 東京, 2005.
- 40) 姫野完治: 校内授業研究を推進する学校組織と教師文化に関する研究 (1). 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 34: 157-167, 2012
- 41) 関山徹, 園屋高志: 小学校教師におけるサポート資源の利用と心理的ストレスとの関連. 鹿児島大学教育学部研究紀要 (教育科学編) 56: 207-218, 2005